

ちょうさ

カワセミを調査してわかること

カワセミは、青色の背中とオレンジ色のお腹が目立つ、スズメと同じくらい大きさの鳥です。下くちばしの色が違うので、オスとメスを見分けることができます。(オスは黒色、メスは赤色です。)



カワセミが暮らすには、エサとなる小魚などの住める、水辺環境が必要です。調査をすることで、カワセミや小魚が暮らせる水辺が、市内のどのあたりに広がっているのが分かります。



カワセミは、みなさんの身近にある池や川、水路でも観察されています。(京都府立植物園、京都御苑、深泥池、宝ヶ池、ひろまわのいけ、かつらがわ、かもがわ、ほつがわ、くもがはた、広沢池、桂川、鴨川、保津川、雲ヶ畑、木幡池、巨椋干拓地など)

水辺の近くの土手などに、穴をほって巣を作ります。

わたしたちの暮らしとカワセミ

カワセミはその美しさから「飛ぶ宝石」とも呼ばれます。カワセミは漢字で「翡翠」と書き、宝石のヒスイ(同じく「翡翠」と書きます。)はカワセミが語源になっています。



カワセミを観察する時は、大きな音を出すなどして脅かしたり、立入禁止の場所には入らずに、マナーを守ってそっと観察しましょう。